

「職人風俗絵巻」 31.7×750 cm 江戸時代中期 本館蔵 H-10

洛中洛外図屏風の市中の一部を切り取ったような、道に面した町屋にいろいろな職人を配した巻物。描かれた職人は、ひとつずつの店として描かれており、職人名が記されているのは、次の24種類である。

弓屋 くみや（組屋〔組紐〕） うちわや（団扇屋） つかまきや（柄巻屋） へにや（紅屋） せと物や（瀬戸物屋） ことや（琴屋） やはき（矢作） かさはり（傘貼り） かゝみや（鏡屋） まき物や（巻物屋） くつや（沓屋） そうめん屋（素麺屋） やり屋（槍屋） えほしや（烏帽子屋） ひものや（檜物屋） ぬいものや（縫い物屋） 筆屋 じゅずや（珠数屋） あふきや（扇屋） まりや（鞠屋） うつほや（鞞屋） 太刀や たはこや（煙草屋）

この他にも、路上に多くの人物が描かれており、名前は記されていないが、次のような生業や芸能が見られる。

鉦叩（かねたたき）、獅子舞、琵琶法師、柴売り、山伏、草履（ぞうり）売り、傀儡師（くぐつ＝人形遣い）、虚無僧（こむそう）、八丁鉦（はっちょうがね＝歌念仏の一種）、猿曳（さるひき）、綿売り、高野聖（こうやひじり）、油売、竹売。

絵は洛中洛外図屏風「歴博F本」に似ており、同一の工房と思われる。この工房作の洛中洛外図屏風などは他にも多く、嫁入り道具のような需要に応じていたと思われる。